

新型の肺炎コロナウィルス(COVID-19)のことで、今までに経験したことがないような先の見通せない状況です。そのような中でも児童の登校が再開し、私たちにとって児童の顔を見て学習できることがこんなに嬉しいことなのかと感じました。また、児童にとって仲間と学ぶことがどれほど刺激的で意味のある事かということを目の当たりにしました。今までの「普段」の出来事が、「不断」のことだと気づきました。

私たち指導者にとって指導方法の学びや研究も「不断」のことです。今年度附属小学校の国語科では、『「読みの観点」を表現活動に応用し、更新する授業づくり』というテーマを掲げて、研究に取り組んでいます。『「読む」活動の学びを、自分が「表現」する際に用いること』を繰り返すことで、読解力と表現力が共に高まり、理解が深まることを明確にしようとしています。このテーマになって、9年計画の9年目ということでもとめの年度として位置付けており、皆様にもいろいろな形でご報告できたらと思います。そのことをもとに意見をいただいたり、話題として挙げていただいたりしたら幸いです。

さて、本年度から平成29年度告示の学習指導要領が実施されています。言い換えると、「資質・能力」、「主体的・対話的で深い学び」、「知識及び技能」、「思考力、判断力、表現力等」、「学びに向かう力、人間性等」、「見方・考え方」「カリキュラム・マネジメント」等のたくさんのキーワードが含まれている新学習指導要領が実施されて4カ月が過ぎたということになります。そこで、今年度は、次のような実践を掲示できればと考えています。

資質・能力の育成に向けた「主体的・対話的で深い学び」の実践

今までの指導方法や指導内容で重要な「不易」な部分と、今の新しい科学から生まれた指導方法やこの時期に考え直さなければいけない「流行」の部分と両方学んでいけたらと考えています。